

第1回鳥取市行財政改革推進市民委員会・会議概要

日 時：平成30年6月4日（月） 午後3時00分から午後5時00分

会 場：鳥取市役所 本庁舎4階 第4会議室

出席者：《委員》

山下 恭史 委員長、山下 博樹 副委員長、

小草 真帆 委員、谷口 稜 委員、徳本 敦子 委員、河崎 誠 委員、

田村 康江 委員、長屋 幸美 委員、川口 有美子 委員、

《鳥取市》

羽場副市長、河井総務部長、河知行財政改革課長、

河上行政経営係長、藤原主任、岩田主任

会議概要（事務局による要約）

1. 開会

河上係長：

それでは定刻となりましたので、これより行財政改革推進市民委員会を開催いたします。本来ですとお一人ずつ委嘱状をお渡しするところですが、本日は机の上に委嘱状をお配りさせていただいておりますのでご了承ください。

本日は初めての会ということで、羽場副市長、河井総務部長にご出席いただいております。それでは代表して羽場副市長よりご挨拶申し上げます。

2. あいさつ

羽場副市長：

皆さま、本日はお忙しい中、第1回鳥取市行財政改革推進市民委員会にご出席いただきありがとうございます。

鳥取市では昭和61年から行財政改革に取り組んでまいりまして、現在は第6次鳥取市行財政改革大綱の取り組みを進めているところであります。

鳥取市は、平成16年に市町村合併をしまして、翌年の平成17年が人口のピークだった時でございますけれど、この年の国勢調査で20万1700人ございました。先月は19万人を切って1万数千人が減ってきたということになります。このように人口も減り、税収も伸び悩んでいる、また高齢化も進み扶助費も増えているという中で、住んでよかったなと思えるようなまちにしていくにはどうしたらいいかということ、知恵を絞りながら日々やっているところです。そういった中で、市民委員会の皆さまからの貴重なご意見やご提言といったものを吸収させていただいて、できることから実践していくことで、市民の方が安心して暮らしていける市政運営に取り組んでいきたいと思っておりますので、お忙しい中ではございますが、貴重なご意見を賜れたらと思っ

ております。どうぞよろしくお願いいたします。

3. 各委員紹介

河上係長：

ありがとうございました。それでは羽場副市長と河井総務部長は所用がございますのでここで退席とさせていただきます。

では議題の方に移ってまいります。次第の3「各委員自己紹介」ということで、本日、次第の裏に名簿を付けてございますので、その名簿に沿って、氏名と所属をそれぞれご紹介いただきたいと思います。また、その後事務局もそれぞれ紹介させていただきますのでよろしくお願いいたします。

(委員及び事務局の紹介)

4. 委員長、副委員長の選任

河上係長：

ありがとうございました。では続きまして次第の4「委員長、副委員長の選任」に移ります。

選任に先立ちまして、本委員会の設置要綱第5条第2項に、「委員会は委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」と規定されていますが、本日は全10名のうち9名にご出席いただいておりますので、本日の会議が成立していることをご報告いたします。

それでは本委員会の設置要綱第4条に基づきまして、委員の互選により委員長、副委員長をそれぞれ1名選任いたします。選任方法につきましての事務局案はございますが、皆さまより意見などあればお伺いしたいと思います。いかがでしょうか。

河崎委員：

事務局案で良いと思います。

河上係長：

ありがとうございます。選任方法につきましては事務局にお任せいただけるということでございます。

事務局案といたしましては、委員長に山下恭史委員、副委員長に山下博樹委員をそれぞれ推薦いたします。よろしければ委員の皆さまの拍手をもって承認いただければと思います。

(委員一同拍手)

河上係長：

ありがとうございました。では山下恭史委員長様、山下博樹副委員長様からそれぞれ一言ずつご挨拶を頂戴できたらと思います。

山下恭史委員長：

ただ今委員長に選任いただきました山下でございます。前回の委員会でも委員長をさせていただきましたので、引き続き務めさせていただきます。

この委員会で取り扱います行財政改革ですが、本日の資料にあります、第6次鳥取市行財政改革大綱の「はじめに」というところに、鳥取市がどのように取り組んでこられたかが触れられています。これを見ますと、鳥取市では30年以上前の昭和61年からすでに改善に目を向けられて実施されています。平成16年度には市役所内部だけではなく、広く市民目線や専門的な見地で検証していただくということを目的に、この鳥取市行財政改革推進市民委員会が設置されております。ですからこの委員会は十数年にわたって活動してきたということでございます。内容としては概ね2年程度かけて、年に6～7回、合計十数回の議論をして事業を検証し、去年で言えば中間報告を提出し、最終的には報告書という形で市長へ提言を行いました。平成22年度から数年間は、一般の市民にも見てもらおうということで、休日に、担当課への公開ヒアリングというものも実施したことがあります。

今回お手元にあります第6次の大綱ですが、これが平成27年度から平成31年度のものですけれど、ここからは税収増ですとか収入確保の観点、そして公共施設の維持管理の問題も入ってきておりますので、この委員会に求められる役割もさらに広がってきているように感じております。また、今年の4月からは鳥取市は中核市となっておりますので、より都市の力が発揮できるステージへと移行したわけですが、当然のことながら実施事業も予算も増えていくこととなります。ただ、以前の政権の時に、国の事業仕分けというものがありましたけれど、そういった、事業を切って捨てる、あるいは事業費の削減ありきというような委員会ではございません。限られた予算の中で無駄がなく有効に活用されているかどうか、あるいは公平感があるかどうか、優先順位はどうなんだろうかといった点について、あくまで市民目線や専門家の見地からどうかということを、担当課と一緒に考えていこうというスタンスを取って行きたいと思っております。なぜこのようなことを言うかと申しますと、市には、議会や、私たちとは別の審議会や委員会もあります。また自治会や、地域との懇談会など、様々な関係機関や組織があります。そういう点で、私たち市民委員会の意見がストレートに届くかどうかは別の問題だと思っておりますが、私たちは市と一緒に、協働の精神で、状況をしっかり理解しながらより良い提言を行えるよう力を結集して委員会の役割を果たしていきたいと考えておりますので、委員の皆さんのご協力をお願いしたいと思います。

最後になりますが、事業実施の担当課や事務局であります行財政改革課の職員皆さまにもご協力をいただきますことよろしくお願いたします。

山下博樹副委員長：

昨年度までこの委員会で勉強させていただきましたが、特に冒頭の委員長のこのお

話が、含蓄がおありで大変勉強になったと感じております。昨年度に引き続き、その委員長の隣で副委員長を務めさせていただきます。どうぞお手柔かによりしくお願いいたします。

河上係長：

ありがとうございます。それでは委員長、副委員長のお二人はお手数ですが座席の移動をお願いいたします。

では以後の進行は山下委員長よりお願いいたします。

5. 議事

山下恭史委員長：

進め方としては、次第と資料に基づいて進めてまいります、たくさん資料がございますので、今日の場合はざっと目を通していただければなるかと思えます。今回から初めて市民委員になられた方が大半だと思いますので、分からないことがあればその都度言っていただければと思えますし、会の終わりの方でも質問時間を設けますので、遠慮なくおっしゃっていただければと思えます。

それから、この委員会の予定も資料としてございますけれど、これについても原案と言いますか、前回の委員会の流れに沿って事務局が考えてくださったもので、委員会の中でこういうこともやってみたいというようなことがあれば言っていただければと思っています。また、このたびの委員会は前回から大きくメンバーが変わり、半分の方が女性の委員さんということで、私に無い視点というものをたくさん持ってらっしゃると思えますし、私が今まで経験した中から言えば、女性の視点があればさらに活発な議論であるとか充実した検討ができるのではないかなと思われるところもありますので、是非積極的にご発言いただけたらと思えます。

それと、今回もそうですが、資料がかなり多くなるということが予想されます。その際に全部読まないといけないかと言うとそういうものでもありません。資料には分からないところも出てくると思えます。その際は事務局に事前に問い合わせてもらっても結構ですし、それも難しければご自分の得意分野だけでも構いません。1つの検討課題に対しての議論が1回で終わるということはありませんので、何回か議論していくうちにだんだんと、こういうことかという風に分かってくるかと思えます。ですから最初からハードルが高いなと思われずに、全部我々の生活に関わってきている施策ですので、そういう観点で勉強するというのが1つと、それから、委員会を通じて例えばこういう観点を入れたらもう少し市民生活が豊かになったりするだろう、ということにもつながっていくもの思っておりますので、遠慮されずに委員会に参加し、議論にも加わっていただけたらと思えますのでよろしくお願いいたします。

では、私の方から冒頭にお話をさせていただきましたけれど、事務局から、本日の資料の説明をお願いします。

岩田主任：

はい。それでは「市民委員会及び第6次鳥取市行財政改革大綱の説明」をさせていただきます。

(以下、資料説明)

山下恭史委員長：

はいどうもありがとうございました。

ただ今事務局から説明をいただきましたが、ご質問等があればいただきたいと思えます。特に大綱の中身でありますとか、あるいは前回どのようなことをやって現状どうなっているのかというものもありましたが、どうでしたでしょうか。谷口さんお分かりになりましたか。

谷口委員：

はい、丁寧に説明いただいて、一連の流れは把握したつもりです。

山下恭史委員長：

小草さんはいかがでしたか。

小草委員：

はい。わかりました。

山下恭史委員長：

他の方はいかがでしょうか、ご質問などあればと思いますが。

後でまたあれば伺いますが、私の方から。今回、この第9期の委員会でやろうとしているのは、資料1-2にスケジュールの概要が提示してありますけれど、こういうイメージでやろうとしているということによろしいですね。

岩田主任：

はい。現時点でと言いますか、事務局としてはこのような内容で進めていきたいと考えているところです。

山下恭史委員長：

この資料によると、今日は6月で第1回ですから、来月には第2回で二次評価という風にしてあるんですが、どうやって行くのかというのがもう少し見えていないところがあります。今日の時点で決まっていることがなければ構いませんが、次回までにこのあたりまでコンセンサスを得ておきたいというものがあるかもしれませんし、それと、次回は2時間使ってということになると思うんですが、「こんなことをやりたいので事前にこんな資料を送ります」とか、あるいは「今日の資料のここを使ってこんなことをしてもらいます」というようなことがあれば教えてください。委員の皆さんは今日の説明を聞いて一応ご理解いただいたということですが、じゃあ次の時に事前準備としてどういう風に取り組んでいいのかそれが少し分からないかもしれないと思いましたので、そういったあたりのことについて事務局として考えられている原案みたいなものがあればお話いただければと思います。

と言いますのが、先ほど第8期の外部評価報告書も見ていただきましたが、全体に対しては一通りすでにやっているんですよね。さらに資料4の欄外に「8期評価」と書いてあるものについては、これは改善の必要があるとか抜本的に見直しが必要だというようなことを含めてこの報告書を作成しております。ですから前回の委員会とまるっきり同じことをしてしまうと少し無駄になってしまうと思います。同じ担当課をお呼びして、「これは前回も説明したじゃないか」ということはあまり繰り返したくないなと思います。もちろんそれも前提として、今回の委員会で女性の視点で改めて見てみたいということもあるかもしれませんが、そのあたりが私としてもどうやって行くのが良いのかなと思っているところがあるので、お訊ねしたいところなんです。

河上係長：

まずは先ほども説明で触れました、担当課が記入した評価シートというものが75の実施計画すべて作っています。本日はまだお配りしておりませんが、後日また資料を送付させていただきます。いきなり二次評価とするというのは難しいと思いますので、まずはそれにざっと目を通していただいて、少しこのあたりの意味が分からないというようなことがあれば、そういったものを委員さんから事前にいただいて、次の委員会までにはその回答をお示しした状態で、ある程度実施計画の内容を掴んでいただけるようなところまで次の会はしたいなと考えているところです。

山下恭史委員長：

ということは、次回の委員会は、それまでに送っていただいた資料を各委員が読み込んで、質問や意見を事前に送ると。そのうえで75の実施計画の勉強会のようなことをすると考えたらよろしいですか。

河上係長：

そうですね、あまりにも分かりづらいということであれば全体をざっと通して説明させていただくという機会も必要なのかもしれません。ただ説明につきましては、やはり実施しているのは担当課ですので、事務局がどこまで説明できるのかということはあると思いますが、いずれにしてもまずはお送りする資料をお読み取りいただいたうえでということで調整させていただければと思います。

山下恭史委員長：

評価シートですが、平成29年度の評価はもう終わっていますか。それから平成30年度はこういうことをやろうという計画まで入っていますか。

河上係長：

平成29年度につきましては担当課の方では入力は終わっております。前回評価シートの書きぶりが分かりづらいというご指摘もいただきましたので、若干行財政改革課が関わって内部評価の調整作業をしているところです。それから次の計画につきましても前任の委員会でもお出ししておりましたので、同様の形になろうかと思います。

山下恭史委員長：

だから平成 30 年度にこういうことをやろうという四半期計画が入っているものと、目標などの数値も入っているものをいただけるということですね。

河上係長：

第 2 回を迎えるまでになるべく早い段階でお送りしたいと思います。

山下恭史委員長：

それに基づいて委員の皆さんに質問なりがあれば事前に挙げていただいて、次の委員会で、担当課からの回答が間に合うものは話ができるということですね。

河上係長：

少なくとも分かりにくいというご質問に対してはその時までに分かるようにしておかないとその後評価していただく際にちょっと難しいかと思っておりますので、それはさせていただきますと考えております。

山下恭史委員長：

そうすると前回の報告書の中で扱った 10 の実施計画について、平成 30 年度に取り組み方を見直しているところは新しい計画なり数値目標なりが出てくるけれど、その見直しが間に合わなかったものや、結果的にそのままというものの中にはありますよね。

河上係長：

報告書がまとまったのが 2 月だったということもありますので、中にはまだ間に合っていないものもございます。

山下恭史委員長：

副委員長、多少内容が変わったものが出てくる可能性もありますけれど、前回の委員会と作業的には同じことを、深掘り出来ればいいんですけど、新たな委員を迎えた中でどうでしょうね。逆に新たな委員さんの別の観点でのご質問やご提案もいただけるという判断で良いでしょうか。

山下博樹副委員長：

ちょっと私からも質問させていただいても良いですか。この第 6 次行革大綱というのは 5 年の計画ですよね。前回の委員会には私も参加させていただきましたが、その 2 年間というのは、ちょうどこの大綱の中間的な期間だったので、中間報告的なその年度年度の取り組みがどんな状況かというものの報告に基づいて、その報告が妥当かどうかをチェックするというのが主な役割だったかと思っておりますけれど、今回の 2 年間、特に来年度については最終年度になるわけですよね。その最終年度に向けてというのは特別に意識することはなくて、これまでどおり淡々と同じことをやれば良いのか、それとも最終年度として何かやらなければいけないことがあるのかというのを教えてください。それから先ほど委員長も言われましたけれど、深掘りをするというものの中身を、前回は 10 の実施計画を詳細に見て行きましたけれど、今年度はこの同じ 10

の実施計画をやっていくのか、あるいは新たなものをどういう観点で選んでいくのかというところのご説明もなかったので、その辺のやり方がどのようになるのかというの少し補足してもらえたらと思います。

岩田主任：

最終年度に向けてということでご質問いただきました。現行の第6次鳥取市行財政改革大綱の成果検証をする必要がありますが、それを平成30年度末時点での4年間の実績を見て総括をしようと考えております。それから平成31年度は、第6次の成果や、中には反省点なども出てくるかもしれませんが、それらを踏まえて次の第7次鳥取市行財政改革大綱ではどういった取り組みをしていけばいいのかというように、当然市の方から案をお示ししますので、その中で取り組みの内容として例えば過不足があるとか、もっとこういうことに取り組んだ方が良いんじゃないかということがあればそういったご意見・ご提言をいただきたいと考えております。これが最終年度として、今までと少し違ったやり方をお願いしたいと思っているところがあります。

河上係長：

それから個別実施計画の評価につきましては、10個の同じものをもう一度やっていたかどうかというものではございませんで、それとは別の、10個の実施計画以外のものを評価していただくと考えております。

山下博樹副委員長：

別のものにしてもまた10個くらいを選んでということですか。

河上係長：

はい。以前の委員会の中でも次の委員会に引継ぎということでご意見をいただいておりますが、同じ柱の2の中でやっていないものですか、あとはファシリティなどのストック改革のあたりが前回の委員会ではできなかったということがありました。今期の委員会でそれを取り上げるかどうかはご議論いただくこととなりますけれど、そういったものに新しく取り組んでいただきたいと事務局としては考えております。

山下恭史委員長：

おそらく時間的に10個はできないかと思しますので、最終的に10個になるかどうかは別として、ひとまず総合目標については平成30年度末の実績でということなので、来年の3月に一度締めますよと。その締めた結果が何月頃に出てくるのか、例えば来年のこのくらいの時期かももう少し遅い時期に出てくるわけですね。ですからそこがおそらく第9回とか第10回というところで成果が出てくるので、それについてのコメントなりというところが委員会としての一つの討議のテーマになるんだろうと思います。それと、それを踏まえた上で、第7次の原案が出てくるのでそれに対してのコメントというのを当然加えていけないといけないということになりますよね。あ

とはちょっと難しいかもしれませんがファシリティマネジメントのものも出てくる。これは勉強会のレベルになるのかもしれませんが、そんなものもあるということになってくれば、そこでの時間は前回の委員会と違って余分に必要になってくると思いますので、前回同様 10 個を取り上げてというのはちょっと難しいのかなという風にも思います。それに、新しい委員さんの中で再度取り組みたいというものが出てくるかもしれませんが、昨年報告で「抜本的な見直し」としたもののフォローについてもですね、できないのであれば再度意見交換をする必要が出てくると思いますので、10 個はできなくてもいくつかは拾って行って、前回と同じようなことを、そのやり方については考えてやっていこうということですよ。

委員の皆さま申し訳ございません。委員長、副委員長でしゃべっておりました議論が分かりにくかったかもしれませんが、次回以降を踏まえて、どういう風に委員会をやっていこうかというすり合わせをしておりました。今後どういう風に委員会が進んでいくかというのがまだよく見えていないと思いますので、そのことでご質問いただいても構いませんし、大綱からちょっと外れるけどもこういう問題はどこかで包含されていますかというようなことでも、あるいはこの実施計画には入っていないことでも結構ですから、何らかのご質問があれば言っていただければと思います。

山下博樹副委員長：

前は私もそうだったんですけども、たぶんほとんどの方が、これか自分たちが何を分担してやっていくのかということ自体がまだイメージできていないんじゃないかと思います。事務局からも評価シートというような説明もありましたが、現物もないしそれをどう見てそれに対して何をコメントするのもイメージできていないから、質問もしにくいんだと思いますけど。

山下恭史委員長：

そうですね。でももしあれば言っていただけたら。無ければまた私の方で進めさせていただきます。

川口委員：

よろしいですか。私たちの任期中にしていく大きなアウトプットというのは、中間報告書と最終報告書になるんでしょうけれど。今日の資料にあるこういう報告書を中間と最終で作るというイメージでよろしいですか。

山下恭史委員長：

はい、そうです。

川口委員：

たとえば量的にもこれくらいの分量のものをということになるんでしょうか。

山下恭史委員長：

そうですね、もしかしたら最終報告の最後に付けている再評価シートという A3 横

のようなものはないかもしれません。これは前回の委員会で、ヒアリングなどもしていない状況で、評価シートを見て、これは妥当であるというような評価をしているものです。先ほどの事務局の説明にありましたが、全部の実施計画を事前にお配りしますので、本当は、一通りそれを見てご質問をいただきたいということでした。これを前回と同じようにしていただくことになるのかどうかということがあるので、この資料と同じものが付くかどうかはまだちょっと分からないです。

ちなみに、資料には各実施計画への質問や意見なども書いてありますので、この資料を見ていただくことも今後の理解の手助けになると思います。

河上係長：

再評価シートについてですが、この時の評価の仕方として、担当課が例えば「計画どおり」と自己評価したものに対してどうでしたかという評価をしていただきまして、妥当ではないものですか判断できませんというご意見もいただきました。それに対して指標の実績に応じて達成度を判定するなどの基準を整理するというような改善を図りましたので、この評価と全く同じやり方にはならないとは思いますが、ただ、再評価としては何らかの格好でしていただきたいという風には考えています。

山下恭史委員長：

そうですね。前回の資料も参考にはしながらですが、若干評価の視点が違うようなので、実施計画としては同じものであっても、我々の評価としては変わってくるということですね。

川口委員：

実施計画というのはこの資料3ですか。これ以外にも資料があって、この資料3は簡略版みたいなものですか。

山下恭史委員長：

評価のシートはまた別途あります。

川口委員：

ここはあくまでも一覧で、実物ではないということですね。

岩田主任：

そうです。より細かなことが書いてある資料は別にあります。

山下恭史委員長：

サンプルがあればいいんですが。

山下博樹副委員長：

このIDごとに、一つひとつさらに具体的な、こんなことに取り組みましたということが書いてあるもっと細かな資料があるんですが、今の資料は大括りとしてはこういうことをやっていますというものです。

川口委員：

実施計画というものの実物と評価シートとか、ちょっとまだ言葉が分かりにくく

て。

山下博樹副委員長：

実施計画と言いながら、この資料はタイトルだけで、中身の計画は何もここには書いていないですから。

川口委員：

評価する材料のイメージが私たちには分からないので、何ページくらいのものなんだろうとか。

山下博樹副委員長：

去年は、この一つひとつについて A4 用紙 1 枚のものでした。

川口委員：

そうすると 70 数枚のものということですか。

山下博樹副委員長：

その資料では各課が取り組んだことに対して自己評価をしているんです。予定通り進んでいますとか遅れていますとか。その評価が妥当かどうかというのを、前回我々はもう一度見直して再評価するというのをしました。それが先ほどの報告書の最後についていたものです。結構大変でした。

川口委員：

そうですね。それから、私たちが評価をするときにこの場で口頭で言い合うのか、自宅で自主学習的にやるのか。

山下博樹副委員長：

両方ありました。先ほどの再評価については、膨大な資料が送られてきて、次回の委員会までに見て再評価を送り返してほしいという宿題が来ました。

河口課長：

こちらが評価シートでございまして、これから参考に一部コピーしてお渡しします。先ほど副委員長がおっしゃられましたように一つの実施計画に 1 枚でございまして。この 1 枚の中に目的ですとか、年度ごとの目標が記載されています。例えば婚活であれば今年度内に何人成婚させたいとか、あるいはイベントを何回しますよというような目標です。それに対して実績も入れていきます。今回は婚活イベントを 5 回しましたとかですね。こういったものを入れながら担当部署の方で評価しています。イベントをしたんですけど人が集まらなかったですとか、イベントはしたけれど成婚に繋がらなかったという評価も入れていきます。まずは次の委員会までにこの評価シートを出させていただきます。ただ 70 数枚もありますので、これをすべて見てもなかなか頭には入りませんので、次回の委員会の中で、細かく 1 枚ずつ説明させていただきます。その中でもう少し聞きたいなと言うことがあればこちらの方でできる範囲で受け答えさせていただきます。ただ担当部局がありますのでここでお応えできなかったことについては、またメールか何かで又は郵送で皆様の方に送らせていただきます

ので、改めてそれを見ていただいて、第3回目の時には同じように議論していくと。もう少しこれは聞きたいとか、例えば先ほどの婚活のイベントであればどこでイベントされたんですかとか、どういった方に何人呼びかけをされましたかとか、たぶんそういった疑問が出てくるでしょうから、それをまたお聞きしながら担当部局に返していく。そして最終的にまとめていただく報告書の中で、この事業は必要だったのかそれとも必要なかったのかということまでを皆さんでご議論していただきたいと考えております。それで前回もこの報告書の中でそれぞれの実施計画が良かったのか悪かったのかということまで示していただいたというのが前回の委員会でご議論いただいた結果でございます。ですからとにかくこの評価シートを早めにお配りしたうえで、その内容を可能な限り説明させていただき、それを担当部局ともう一度やりとりをし、皆さまからのご意見をいただくということを、一つ大きな作業としてやっていきたいと考えております。それからもう一つの深掘りということが先ほどからも挙がっておりますが、この深掘りというのが、この報告書の4ページからのものです。これが深掘りをしていただいた実施計画です。先ほどお配りしたこの評価シート1枚ではなかなか分からないものがあります。例えば先ほどの婚活の話で行けば、チラシをお配りするんですけど、そのチラシは実物を見ないとなかなか分からなかったりしますし、どういった方が会員になっているかということですね、この評価シート1枚ではなかなか判断できませんよね。ですからここからは担当課を呼んで30分くらいを1クールにして直接質問を投げかけながら議論していくというやり方です。これを前は10個の実施計画でしていただきましたが、先ほど委員長からもご指摘ありましたように、スケジュール的に10もできない可能性もありますから、例えば5つ程度に絞ってやっていただくと。そこがいわゆる深掘りということで、例えば今鳥取市では子育てを重点的にやっているんですが、子育てのところを詳しく見たいとなれば不妊治療ですとかそういうこともやっていますし、保育園の充実ということで、保健師がなかなか集まらないので、保健師さんが集まれるような新たな施策も行っています。こういったものを担当課から説明させていただいて、それじゃ少し弱いねとか、そこはちょっと過剰だよねと言うところを皆さまからご意見をいただきながら深掘りをしていくというのが、先ほどの70数事業とは別に進めて行くということで、2つのパターンで報告書をまとめていただくということになります。前回はそういう形でやっていただきましたが、先ほどから話にも出てきますとおり、来年度は最終報告を作る年になります。ですからこれは前回の委員さんで作っていただいたあくまでも中間報告ですので、これと、今の委員さんで他の事業をしていただいて、全体の70幾つの評価もしていただいて、最終的な報告としてまとめたいと考えています。

ですからとりあえずの作業としましてはこの評価シートをまずお配りをして、これを議論しながら、次に深掘りする事業をその中からピックアップしていただきます。

その部分についてヒアリングをして、もう一度議論を深めていくというような流れになろうかと思います。

山下恭史委員長：

昨年度作った報告書は最終だと思っていましたが、第6次大綱の中では中間という位置づけですね。

山下博樹副委員長：

ということは、先ほど言われた第6次の最終報告書というのは、昨年度作ったこの程度では済まないということになるのでしょうか。ボリューム的には。

河口課長：

ですから今回の委員さんで深掘りをしていただいたものが少し加わりまして、最終的に先ほど委員長が言われたA3の再評価シートについては、どういう形で付けるかはもう一度議論をさせていただきます。これはあくまでも評価シートでの議論になりますので、これをどこまで市長に出すのが良いのかというのはまたご議論いただきますが、それ以外の部分については、そこに付け足して市長の方に報告したいと考えています。

山下博樹副委員長：

そうすると最終の報告書の中身というのは、具体的にはどういうものをイメージしたらいいですか。

河口課長：

基本的にはこれに継ぎ足しをある程度していくようなイメージですね。

山下博樹副委員長：

その全部の70幾つについてここまでではないにしても書いていくということですか。

河口課長：

そこまでではないです。ですからここに前回していただいた10事業がありますので、これはしっかりした評価になっていますので、これはいただいた意見に対する鳥取市の改善策を報告させていただきます。一度評価していただいたものを報告書としていただきましたので、これをしっかりサポートして、担当課の方がこう変えました、こうしましたということを今の委員さんにお示しします。それから、それ以外のものを例えば5事業くらい決めていただいて、それを深掘りしてそれらについても意見・提言をいただいて併せて市長の方に提出するということになります。ですからこの10事業については場合によっては、求めた改善になっていないことがありますので、その際はもう一度この委員会ですらに改善しなさいよとご意見をいただければまたそれも市長に伝わっていくということになります。

山下恭史委員長：

はい分かりました。とりあえずは事前に評価シートが送られてきます。その中で質

問等があれば、事務局に送っていただくということをお願いします。事務局で質問・意見の入力フォームを作っただけだと思います。それで、その時点で追加の資料がほしいとか、あるいはこれが分からないということがあれば記入していただく。そしてそれを再度次回の委員会の中で、先ほどの課長さんのお話ではご説明いただくということです。事前の評価シートも分からないなら分からないで、時間がなければ無理に全部でなくとも、ご自分が興味のあるものを中心にしていただいても結構なので、本来ならば全部していただいた方が、鳥取市がどのような取り組みをしているかということが分かるのでありがたいとは思いますが、時間的な制約もありますから、とりあえずは事前に配っていただいた資料でできる範囲で見ていただくということをお願いします。それを担当課に振って、間に合う分について第2回の委員会で、回答も含めご説明いただくということでもいいですね。そして、その中でどれをヒアリング対象にするかということを決めていくということになるかと思います。

山下博樹副委員長：

その決め方はどうしますか。

山下恭史委員長：

それは2回の中で意見を聞きながら決めて行ければと思います。それに、行財政改革課からこれもぜひ検討してほしいというものがあれば、それも議論していければいいですし、そして4回目以降で事業の担当課を呼んでヒアリングするという流れになるかと思います。

川口委員：

作業的な中身は分かったんですが、今日の資料は第8期の方の最終報告ですよ。

山下恭史委員長：

そうです。ですから第8期の最終であって、第6次行財政改革大綱の最終ではないということですね。最終はこれも踏まえた形で作っていくということでした。

川口委員：

それは第13回の時に我々がということですね。

山下恭史委員長：

そういうことです。ですから第8期の報告書に付け加えるのか中身を多少変えるのかは別として、いずれにしても第8期の報告書がベースとはなると思います。

川口委員：

今のスケジュールでの、第7回と第8回にある中間報告書というのは。

山下恭史委員長：

第13回に最終の報告書ができますよね。それは第8期がベースになっていますから、このベースに今年度の議論を加えて、その途中経過を中間報告としてまとめていきます。最終的には2年間分をまとめて作っていくことになるので、最終不尾国にまるっきり新しいものができるというわけではないです。

岩田主任：

前回作っていただいた中間報告については、全部の事業を資料で見てくださいましたよという部分と、前半に行った4つの事業に対するヒアリングの結果を、そこまでの途中経過ということで集約していただいたものです。今回も同様に一旦ここで1年目の取り組みを取りまとめていただこうと予定を入れていたものです。

川口委員：

この第8期の報告書の名称が、もうこれで終わりのように受け取れてしまったので。

山下恭史委員長：

私も実はそういう風に思ってたんですけど、前は2年間で1クールとして委員会の活動がありましたので、その委員会の任期の中では最終としていたんです。ですが第6次鳥取行財政改革大綱は平成30年度末に総括するということですから、第6次大綱としての最終ということではなくて、あくまでこれは第8期の最終版で、第9期の委員会では第8期の報告書も踏まえて、第6次大綱としての完成版の報告書を作ろうと。その途中経過は中間ということで作りましょう。中間報告書を作る際に第8期の報告書を参考とするのか、今年度やった内容だけを取り出すのかは、報告書の形式だけの問題ですので。どちらにしても最終完成版の中には入ってくる内容となると思います。

河口課長：

第8期の委員さんが作られた報告書の中で提案もしていただいています。こういったものはやめた方が良いでしょう、あるいは強化してくださいといった形で。これについては皆さんにもう一度お配りをさせていただいて、市民委員会からの評価を受けて市が今どのような対応をしているかというのを随時お知らせさせていただこうと思っています。そうしないとせっかく提案していただいたのに何もないじゃないかということにもなりかねませんので。これを皆さんにお配りしてご説明させていただきます。そして今年新たに選んだ例えば5事業をプラスしていただいて、最終的には15事業としたものを、第6次大綱の最終報告として市長に提出していただくということになります。ただ、なかなか中間報告というのが分かりにくいんじゃないかなともおもっておりまして、これをする方が良いでしょうのかしない方が良いでしょうのかというのも次回までに委員長、副委員長と相談させていただきます。この中間報告というのは具体的にはこの第8期の報告書の中間時点のものです。前回の委員会では2年間のうち、最初の年に4事業、2年目に6事業と、2年間に分けてそれぞれ見ていただきました。そのうち最初の年の4事業だけを中間報告としてまとめてお出ししました。その後6事業を付け加えたものがこの第8期の報告書となりまして、市長に提出いただきました。ただ今回の第9期の委員会の皆さんにはもう一つ重要な仕事としまして第7次の行財政改革大綱をしっかり見ていただきたいと思いますと考えております。第7次の行革大綱は平成

32年度から平成36年度までの5年間の重要な計画ですが、例えば鳥取市から子育てを一切しないという案が出た時に、本当にそれでいいのかというのを議論してご意見いただきたいというような仕事もあります。前回の第8期の委員さんにはこれはございませんでしたので10事業の評価をしていただきましたが、それらも含めて考えますと、本当に中間報告を作るのが良いのかどうか、もうちょっと考えた方が良いと思いますので、委員長、副委員長と相談させていただいて、もう一度整理したうえで次の委員会の中でご提示させていただきます。イメージとしては、この10事業に今回の委員さんでしていただいた事業を付け加えて、第6次行革大綱の最終版として提出していただく、そしてこれを踏まえて次の計画のご意見も併せていただくという風に進めていきたいと考えております。またしつこいようですけれども全体の70幾つの事業につきましては書面と我々の方で説明させていただきますので、そこはなかなかすべてを網羅してご理解いただくのは難しいと思いますので、特に自分が気になるところで、例えば若者の対応をどう考えているのかというのを言っていただいても結構ですし、女性の視点で、女性が困っていることをどう施策に活かしていくのかというところで、子育てのところを重点的に見ていただくというのも結構です。ですから、全てに意見を言っていただくのが難しければご自分の得意分野だけを集中的に見ていただいてあとは全体的に事務局の説明を聞いていただいて思ったことを言っていただくというような形で進めて行けたら良いかなと考えております。

山下恭史委員長：

ありがとうございます。予定した時間をオーバーしておりますけれども、ご質問などあればいただければと思いますがいかがでしょうか。

ないようでしたら、繰り返しになりますけれども、事前に事務局から資料を送らせていただきますので、それに対する質問等について送り返していただきます。その中でどれを特に見るかというのはそれぞれで考えていただくということになります。本当は全部見ていただく方が、鳥取市がどんなことをしているかが分かるので良いとは思いますが、資料の到着がいつになるかということもあるので、そこは私からの希望ということにさせていただきます。

それから、第2回の日程調整がこれからだと思いますが、2回目については皆さんからのご質問やご意見に対して間に合うものは担当課からの回答が帰ってくると思いますので、そういったものの説明を受けます。そして第3回以降をどうやって進めていこうかというような、ヒアリングの対象事業まで踏み込めればいいんですが、皆さんからの質問状況などによって、これはもう1回委員会を使って説明と理解をしてもらわないと進まないという風に判断すれば、必ずしもスケジュールありきではありませんので、もう1回使ってやっていくとか、進め方については皆さんのご意見を聞きながら、ベースは事務局がスケジュールを書いてありますけれども、一応これはどういう風な形で流れていくかというのを頭に入れていただいて、できたらこの通りにい

った方が楽なんです、消化不良のままスケジュールをこなすという委員会ではあり
ませんので、そこでちょっとどうかなと思ったら立ち止まってやってみる。そしてや
り方も変えていくということについて、臨機応変に対応していこうと思っております
ので、都度、ご意見等をいただければまた事務局と相談しながら委員会の運営の方
についても改善を加えながらやっていこうという風に思っております。

6. その他

山下恭史委員長：

時間を過ぎてしまいましたが、これまでのところで特に無ければ、次第の6「その
他」に移りたいと思います。

委員の皆さんから、今までの議事とは別に何かあればおっしゃっていただければと
思います。無ければ事務局からお願いします。

岩田主任：

(事務連絡)

7. 閉会

山下恭史委員長：

本日は勉強会と、次回以降のことについて協議をいたしました。

それでは第1回の鳥取市行財政改革推進市民委員会をこれで終了いたします。どう
もありがとうございました。
